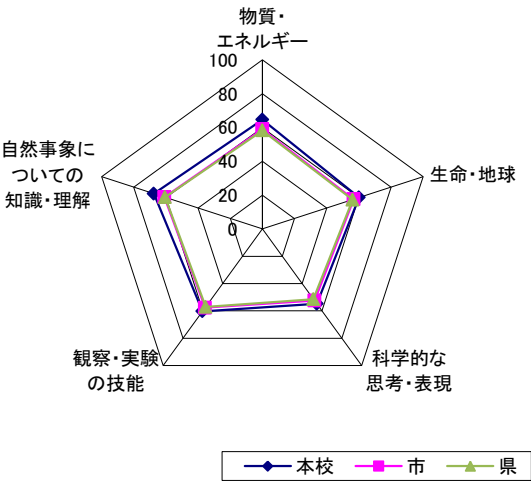


宇都宮市立西原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	64.7	59.0	58.3
	生命・地球	60.1	56.8	56.1
観点	科学的な思考・表現	54.7	52.5	51.4
	観察・実験の技能	60.3	57.6	57.0
	自然事象についての知識・理解	67.5	61.0	60.6



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、他の領域と比べてやや高く、県や市の平均正答率を上回っていた。 ○「空気と水の性質」や「電気のはたらき」の問題では、「自然事象についての知識・理解」の正答率が、県の平均正答率を上回っていた。特に、授業で実験したことについての問題の正答率が、高かった。 ●「金属、水、空気と温度」の問題では、「科学的な思考・表現」に課題があった。記述問題については、無記入の割合が、県や市に比べて少なかった。しかし、既習事項を活用し、理由や説明を文でまとめられない児童が目立った。	・授業の中で、実験や観察した際は、ノートに言葉や図などで工夫してまとめる活動を行い、自然事象についての知識を正しく理解できるようにする。また、話し合いや友達の発表から分かったことをノートに書き加えたり、自分の考えを文でまとめたりすることを重視することで、「科学的な思考・表現」を身に付けられるようにする。
生命・地球	平均正答率は、他の領域と比べてやや低かったが、県や市の平均正答率を上回っていた。 ○「人の体のつくりと運動」や「季節と生物」の問題の平均正答率が、県の平均正答率を上回っていた。観察や実験の結果をグラフで表したり、結果をグラフから読み取ったりする問題の正答率が、高かった。 ●「天気の様子」「月と星」の問題では、方位磁針や百葉箱、星座早見表の使い方の問題に課題があった。また、水の蒸発についての記述問題の誤答が目立った。	・実験や観察する際には、一人一人が観察、実験器具を操作し技能が正しく身に付けられるようにしていく。 ・実験を行う場合は、実験の見通しや目的意識がもてるようにするため、関連のある生活経験や既習事項を想起させたり、考えるヒントとなるような素材を与えたりして子どもに考えやすいように工夫して授業を行っていく。また、実験の考察の場面では、分かったことをノートにまとめる時間や話し合いの時間を十分に確保していく。